



第46号

発行所 馬場
行 区 竜ヶ崎
所 水沢区 同窓会
水沢高校
☎0197-24-3151

昨年10月、水高野球部創部70周年記念事業として、強豪校を招待しての試合が行われました。なんとお招きしたのはまさに昨年夏の甲子園で優勝した、花咲徳栄高校(埼玉)野球部の選手の皆さんでした。



同窓会長 長野耕定

それには訳があり、花咲徳栄の野球部責任教師である村上直心先生は水高野球部OBであったとのことでした。野球部後援会会長に「すごいタイミングだったね」というと、当然ながら優勝したから招待したわけではなく、前々からお願いをしていたとのこと。それに岩手県高等学校野球連盟会長阿部先生と同理事長佐々木先生も本校の野球部OBであることもあり、両先生方に話を通してもらい10月に親善試合に来てくれることに

なっていたそうです。

当日はお天気も良く、会場の森山球場(金ヶ崎町)も内野席はほぼ満席で試合も打撃戦でとても盛り上がりました。今年も野球部は期待が持てそうだと思います。

野球部の話はまだありまして、11月に野球部創立70周年記念式典があり、なんと司会がOBでフジTV朝の番組に出演中のアナウンサー久慈暁子さんでした。お父さんが野球部OBの関係で実現できたのかと思っていたがそうではな

かった。フジ系列の関西テレビの役員の中に水高OBの方がいらっしやるようで、その方を通じてフジTVの役員にお願いをしていただいて、いわば業務命令で実現したと聞いています。

いろいろ書いてきました。まさに今回の出来事は同窓会の力を見せてくれたと思えました。同窓会というのは、時間(先輩・後輩)と言う縦軸と同級生という横軸のつながりできているもので、そこに「まさか」と思われることが実現し

てしまう力があるということなのでしょう。お骨折りを頂いた皆様に感謝申し上げます。

昨年も同窓会盛岡、仙台、関東各支部総会に出席いたしました。浅沼東北銀行会長はじめ、北杜市(山梨)で「朝鮮の土になった日本人」と言われている浅川兄弟の資料館館長をされている澤谷(旧・後藤)滋子さん。地元愛に溢れ含蓄のある先輩のお話、知らなかった朝鮮と日本の出来事など各地で御活躍の方々、講演を拝聴させていただきました。

戦後学制改革が行われ県立水沢高等学校が発足したのが昭和23年、同年に野球部も創部し70年ということになります。今年は明治維新から150年、平成30年などいろいろ節目に当たる年と言われ明治維新関連や天皇陛下の御退位と新年号などが話題になっています。昭和23年生まれの私を含めた卒業19回生も水高と同じ満70歳ということになります。

さて私の節目はどうなることか。まずは健康第一、約40年も続けている早朝テニスで冬期間できなかった身体づくりから始めよう。母校の活躍を祈念し同窓会の皆さんもお元気で過ごしてください。

同窓会総会

今年度の総会は、8月11日(金)水沢グランドホテルで開催され、総会56名、講演会73名、懇親会71名と、多くの同窓生にお集まりいただきました。

14時からの総会では、長野同窓会長、立花校長のあいさつの後、飛龍祭での「水高まんじゅう」の売り上げの一部をいわての学び希望基金へ寄附、ウエイトリフディング全国優勝の懸垂幕寄贈など、平成28年度の事業報告並びに決算報告がなされました。また、平成29年度事業計画及び予算案についても承認されました。質疑では、同窓会名簿に関して、新制中学に移行したときの卒業生名簿が欠落しているもので検討してほしいとの意見が寄せられました。

15時からは、佐々木幸寿氏(東京学芸大学副学長、日本学校教育学会会長、水沢高校第31回生)による「研究者から見た岩手の子どもの学力」と題して講演会が行われました。世界から見た日本の子ども、全国から見た岩手の子どもの現状について、各種の調査結果を用いて分析していただきました。その上で、「生



き方にまで影響を与える授業とは」、「岩手らしさとは」について具体例を交えながら興味深くお話ししていただきました。参加者が「真の岩手らしさ」について深く考える機会となり、大好評でした。

17時からは懇親会が行われ、佐々木氏の同窓生の方々にも遠方から多数参加いただき、同窓生の方々の親睦を深めることが出来ました。

来年度も多くの同窓生の皆様のご参加をお待ちしています。

ご挨拶とお礼



校長 立花 起一

同窓生の皆様には、日頃から多大なご支援とご協力を賜り誠にありがとうございます。私は昨年の春に赴任して以来、来校される様々な分野の方々とお会いしておりますが、その中には本校の卒業生という方が多く、また、各方面で指導的立場の方々がほとんどで、同窓生の皆様の活躍と水高の長い歴史と伝統をひしひしと感じているところ です。皆様の公私に渡るお力添えがあつて現在の水高が在るのだと認識しているところです。

同窓会長をはじめ、役員の皆様、会員の皆様に改めて感謝申し上げます。

さて、本校は明治44年4月の創立以来、今年で107年目を迎えました。この間、約2万3千名余の卒業生を世に送り出しています。各地

区の総会に参加させていただくと、同窓生の皆様が国内外で活躍されていること、母校への強い思いをもたれていることを具体的に知ることができ、大変貴重な場でありました。本校では、皆様からの支援で、志学館、水龍館、昇龍館などの教育施設が整備され、後輩となる生徒達の教育環境が充実しております。私が赴任しましたときには、校地の広さと独立した建物の多さ、教室前に茂る大木の景観に、高校というよりは大学のキャンパス的な雰囲気を感じたものです。これから施設の維持管理には苦勞している面もありますが、皆様の継続的なご支援をいただいたおかげで、生徒達に良い学習環境を提供することができています。また、同窓生の皆様の寄付により奨学金制度が

設けられていることは、後輩に対する思いの深さを感じますとともに、生徒にとつては安心して上級学校へ進学することができる支援であると感謝に堪えません。

水沢高校といえはSSH(スーパーサイエンスハイスクール)校という印象が県内でも定着してきていますが、今年度文科省から第4期目となる指定を受けました。今後5年間で「地域創生の原動力となる科学系人材の育成」を目的に、①じりつ(自立・自律)した行動力を持った人材、②国際性を兼ね備えた人材の育成を目指して教育プログラムの開発・実践を行って行く予定になっています。この事業においても、運営指導委員や外部講師として同窓生の方々に大変お世話いただいているところで

す。次年度からは、理数科以外でも課題研究に取り組むことにしております。地域的なテーマも取り上げられるかと思いますが、各界で活躍されている同窓生の皆様にSSH事業の面でもご協力をいただきたいと考えています。

仙台支部総会

仙台支部総会が11月12日、長野耕定同窓会会長、立花起一校長先生、事務局の佐藤貴之先生をお迎えし、宮城野区内のホテルで開催されました。改選された役員のデビューの場でもあり、村上栄一新会長(48年卒)から就任の挨拶とともに、水高同窓会(本部)、在仙岩手県人会の参加報告がありました。

日曜日の昼食会として定着しており、水高の近況がわかる、和やかな会になるような企画が練られました。まず、「水高NOW」と題して、種山高原、旧緯度観測所、マエサワクジラの化石、衣川剣舞など奥州市全域の様子、さらに水高風景、在校生のクラスマッチ、運動会、カップ踊りなどの紹介。高校側から提供いただいた写真、齋藤健相談役からの出所不明の素晴らしい写真もあり、記憶が徐々によみがえってきました。棒倒しの写真には、「まだ続けられていたのか。感激した」と讚える言葉がありました。

また、席の配置も工夫。相談役は本来の同級席へ。しり込みする二名の女性副会長を強引に来賓席に誘導。終了後は、新任役員、平成5年卒の新人を巻き込み反省会へと進み、来年への流れを作ることができました。



年となりました。運動部では、県高総体におけるソフトテニス女子団体が31年ぶりの優勝、ウエイトリフティング女子個人2人が県高総体優勝、県新人大会では卓球女子団体が二連覇しました。文化部でも、県囲碁選手権での女子団体優勝、文芸短詩部の全国俳句選手権大会連続出場など、文武における活躍の姿が県内にとどまらず全国大会でも見られました。東北大会、全国大会に出場する際には、同窓会より激励金をいただいております。また、水龍館で合宿する際には、布団代を支援していただいております。このような支援は部活動の強化に大いに役立っているところであります。

昨年、胆沢地区の3つの中学校が少子化のため合併しました。奥州市内の高等学校も学級数が減っていくことになっています。少子化は今後も続くと思われますが、本校は生徒や保護者、地域の願いがかなえられる学校であるよう、充実した教育の実践を目指していきたいと考えています。同窓会の皆様には、今後ともご理解とご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成以降の同窓生は転居、転勤など、連絡しにくい状況にありますので、チャンスは逃しません。

司会是小澤勇次郎さん(63年卒)が連続して務め、安定感が増しました。

'17 クローズアップ

※1月末日までに岩手日報や胆江日日新聞に掲載された記事を集めております。他紙のものやチェック漏れで掲載できなかったものについてはご容赦下さい。

数学者・藤沢利喜太郎を研究

福島大4年 今野翔太さん

学会誌に論文掲載へ



藤沢は佐渡国(現新潟)出身の数学者。今野さんによる「藤沢利喜太郎の数学研究」の論文が、三十一日発行の『日本数学会研究』に掲載される。明後期から活躍した近代日本数学の礎を築いた数学者藤沢利喜太郎について執筆した。同大によると、学士課程の学生の論文が専門家の査読付きで掲載されるのは極めて珍しいという。四日、今野さんが記者会見し発表した。

今野 翔太(高66回・平成26年卒)
福島民報 平成29年10月5日付

仙台の佐々木さんが自費出版

地域の魅力 自覚の契機に



佐々木さんは仙台市にある高野記念館で当時の河野市長と出会う。佐々木さんは「地域の魅力を自覚する契機になった」と語る。佐々木さんは「地域の魅力を自覚する契機になった」と語る。佐々木さんは「地域の魅力を自覚する契機になった」と語る。

文化

佐々木 伸(高25回・昭和48年卒)
河北新報 平成29年3月29日付

県高野連会長に就任した

阿部 徹さん



4月、一関市の校長に就任した阿部徹さんは、県高野連会長に就任された。阿部さんは「高野連を通じて、全ての部員が人として成長できる体制をつくりたい」と語る。阿部さんは「高野連を通じて、全ての部員が人として成長できる体制をつくりたい」と語る。

ひと

球部後輩の佐々木明志理事長とタッグを組む。阿部さんは「高野連を通じて、全ての部員が人として成長できる体制をつくりたい」と語る。阿部さんは「高野連を通じて、全ての部員が人として成長できる体制をつくりたい」と語る。

阿部 徹(高29回・昭和52年卒)
岩手日報 平成29年5月9日付

卓球 水沢女子が連覇



県高校新人大会

水沢女子卓球部は、県高校新人大会で連覇を達成した。水沢女子卓球部は、県高校新人大会で連覇を達成した。水沢女子卓球部は、県高校新人大会で連覇を達成した。

4人の気持ち一つに 卓球。水沢女子卓球部は、県高校新人大会で連覇を達成した。水沢女子卓球部は、県高校新人大会で連覇を達成した。水沢女子卓球部は、県高校新人大会で連覇を達成した。

卓球女子
胆江日日新聞
平成29年11月9日付

俳句
岩手日報 平成29年6月18日付



水沢Aが全国へ。水沢女子卓球部は、全国大会出場を決めた。水沢女子卓球部は、全国大会出場を決めた。水沢女子卓球部は、全国大会出場を決めた。

佐熊(水沢)75kg超級3位



全国高校女子重量挙げ。佐熊(水沢)75kg超級3位。佐熊(水沢)75kg超級3位。佐熊(水沢)75kg超級3位。佐熊(水沢)75kg超級3位。

重量挙げ
岩手日報 平成29年7月24日付

集大成で屈辱晴らす

佐熊(水沢)75kg超級3位。佐熊(水沢)75kg超級3位。佐熊(水沢)75kg超級3位。佐熊(水沢)75kg超級3位。



学校対抗で初優勝に輝いた水沢チーム

選抜大会へ全力。水沢女子卓球部は、選抜大会で優勝した。水沢女子卓球部は、選抜大会で優勝した。水沢女子卓球部は、選抜大会で優勝した。

重量挙げ
胆江日日新聞
平成29年11月9日付

平成30年度 岩手県立水沢高等学校同窓会総会

日時 平成30年 8 月11日(土)

場所 水沢グランドホテル

水沢区東町40 TEL 0197-25-8311

問い合わせ先 水沢高校同窓会事務局
TEL 0197-24-3152

※詳細は、ホームページに 6 月頃掲載しますので、ご覧下さい。
URL <http://www.imizuko.com>

水高育英会へのご寄付ありがとうございました

今年度、水高育英会へのご寄付は19名の方より総額約59万 5 千円のご寄付を頂戴いたしました。ありがとうございました。これまでも多くの進学する卒業生を支えてきております。今後ともご協力をお願いします。

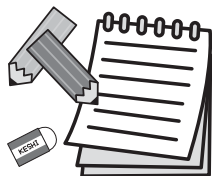
水高育英会寄付者(平成30年 1 月31日確認分・個人の方は五十音順・敬称略)

青 山 栄	及 川 征 一	菅 原 正 夫	村 上 倍 達
雨 笠 祥 子	小 野 幸 宣	千 葉 和 夫	渡 辺 主 喜
市 川 公 太	小野田 義 人	千 葉 真奈美	水沢高校第20回生
伊 藤 康 道	木 村 恵 也	刀 根 勝 雄	
及 川 修	佐 藤 牧 人	中 田 佑	

同窓生の著書(図書館寄贈分)

著 者	書 名	卒 業 年
柴 崎 博 文	『斎藤一人 人生がつらくなったときに読む本』	昭和53年
佐々木 伸	『奥州仙台の謎解き シリーズ二 伊達政宗卿 二. 二六事件と騎馬像の謎』	昭和48年
佐 藤 秀 昭	『手紙』	昭和33年

面でも生徒たちはがんばっております。今後ともご支援、ご声援をお願いいたします。



今年度は、水高の部活動の活躍がめだちました。ソフトテニス部の三十一年ぶりの優勝をはじめ、陸上での優勝、卓球部の新人戦二連覇。ウエイトリフティングも県優勝、県新記録、全国大会上位入賞など相変わらずの強豪ぶりです。文化部でも、囲碁将棋部の優勝、また、音楽部はNKHのど自慢でチャンピオンになり、話題をさらいました。

編集後記

卒業生等が卒業証明書等の交付を受ける場合、手数料が必要です。一通あたり、400円分の岩手県収入証紙を添付して申請して下さい。詳しくは水沢高校ホームページをご覧ください。事務室までお問い合わせ下さい。

◇事務室からのお知らせ◇